京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金四十五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十一月十日
發行兼編輯 印刷人 山下英爾
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

寒窓政話一則

「天嘯」寄

●韓國に爲政者たらん者は此國の潜勢力那邊に潜在するやを觀察すること吃緊要件とす上流社會に在りて勢力ありと是れ一敵國下流社會に在り負擔商是一敵國少くとも此二者の中心を日本の勢力に結び付け得ば統監の勢其半ばを減じ來らんとす

●獨り之れのみに非ざるなり一千万の士民を善導すること統監と要中の要秘中の秘此心機を機關に注ぐ油の如きか爲政者先づ此心有りて始て經營機關の開轉滑脫を見るもすれば不平反感京郷に漲ちて萬事逆轉を告ぐる者是れ單に韓人恐頑の罪のみに存せん耶

●聞說く統監府高官某大韓協會の起るを聞き金光大臣を訪めて曰く「アンナものに這入るもので無い」と自家親しく管理指導す可き國民中に「アンナもの」と命名する階級あるか聞く所によれば此人既に一進會に浮身を寠すものなりと云ふ惜哉一進會は如何なる者も御膳も由來刀筆の吏國事を誤る古今軌を同ふす

●京城の商業志士統監府を怖る虎の如し皆其筆授を假り來りて自己の地盤を作らんと欲する爾城の意氣を溶合するも予一人に及ばざる程なり駆り制御し易き民郡をば統監府の色別愛憎し此黨は吾味方彼派は吾反對派なりと扨て期間反對派と誤認する連中を忌むこと蛇蝎の如しとせば或は恐る意の爲めに術を驅るに到らんか此狭隘なる布衣感の中心に京城一撮土を包まんとす何ぞ陵し況んや千萬人をや

●吾先づ迎て敵視せば彼又吾を迎て敵視せんとす感應の機斯の如し基督は萬人の爲めに生れ佛は萬人の爲めに生る能保護國の官吏も亦此心掛あり度きもの

●勉めて韓民の不平を緩和せんと期せよ喜び低れて吾に近くもの固より愛すべし然れども悔悟不屈吾に向ふ者亦愛撫せずんばあるべからず是れ却て逆縁度し易きの乘生の今茲に由り自ら求めて敵を作り年々葛藤を事とし家を焼き敎を殺すの外能なしとせば是れ保護政治の拙劣を示すに止まる何を以て鄰國の君民に謝せんとする

●無智鳥合の民族に向つて按劍疾視の態度を以て國豆の如きを宣告するなり吾人の代表者に現狀を改正せざる限り否現在の制度を改正せざる限りは八道の不平漸く形を變へ永く消滅せし

文化史上より見たる日韓の關係(上)

濱田耕作

政治上より日韓の關係を見れば日本の常に侵略的態度に出で韓國をして我が勢力の下に屈服せんことを努むと雖ど韓國は多く斯の如き態度に出でたるを見ず神功皇后の征韓の快擧に始まり次では豐太閤の朝鮮役となり遂に明治の對韓政策となる、日本が韓半島に其の勢力を布植し政治的關係に於いて之を屈從せしめんとするは實に我が國民の歷史的理想と謂つ可く其の間幾多の失敗を繰返して其の實現を期待するの念愈々深切なるを見る。

然りと雖も日韓の關係を他の文藝美術の方面より觀察すれば其の政治的關係と痛く相異れるものあるを認めざるを得ず政治的勝者たる日本が却つて常に被征服者となり韓國は屢々侵略的態度を以て我れに臨めるを見るのみならず此の韓國の文化的侵略が常に日本の政治的軍事的征服について起れるものあるが如きは吾人の大に興味を覺ゆる所なり。

神功皇后の三韓征伐を試みたる日本は、やがて韓國によりて文化的侵略を受くるの巳むを得ざりき、應神天皇の時には早く文字と典籍とを以て征服せられ次いで欽明天皇の頃には佛敎と其れに所屬せる美術とを以て侵略せられき、然れども此の征略が日本に取りて却つて大なる恩惠たりしや云ふ迄も無く推古時代の藝術なるものは斯によりて蔚然として興起したりき、即ちかの大和法隆寺を中心とせる各種の建築と各種の繪畫彫刻とは韓國に取りては此の第一次侵略の榮譽ある紀念たり。

法隆寺の建築中金堂五重塔中門の三者及び之に隣接せる法輪寺法起寺の兩三重塔は實に百濟より渡來せる樣式に外ならず而して其の形式の各種の美術的制約に適應して形態の美を極めたり洵に日本文化史上の一偉觀たり、又た法隆寺及び南都の各寺に傳來せる當代の彫刻物工藝品等は皆な韓國人及び其の歸化人によりて製作せられたるものにして吾人が此等東洋古代の藝術を以て宇內に誇り得るは實に韓國の賜なるを記臆せざる可からず。

北老爺嶺(山脈)大森林及雪中縱斷記(六)

黒衣仙

いかに森林が氣溫を調和する効が有ると云つた所で、雪の降つた朝は矢張幾分か寒い一尺二三寸も積つてある雪は寒さの爲に上層丈は硬くなつて、打戌たる所ろ人の足跡とては更に無い、たゞノロ(麞)の少さな優しい足跡が櫻の瓣を散らした如に、彼方此方に點々と印いて、間々所ろ々々大きな力ある足で踏占めたやうな跡が見ゆるばかりだ、

或者の話に依ると、これは虎の足跡で麞を追ふて昨夜此邊りを徘徊したものだと云ふ何れの足跡にした所で、雪は左程搔き亂れては居らぬ、その奇麗に積つてゐる雪を亂して一行は一筋の汚い路を新に開いてゆく

平崗と云へば前にもある通る、鳥渡小高い所で、可也遠方まで見ゐる、見渡す限りぎつしり立木に詰んでゐて、梢頭に雪を戴ける樣はさながら花の林の如で有る、その中にも紅松、沙松など云ふ針葉樹の梢は棗に空中の水分が凝着して丁度氷の針の如に成つてゐる、玉柯など形容すべきである。

實に壯觀だ、とは云ふもの〻寬如と此光景に見恍れてゐる場合でない、全身雪を稱するは人情に非らずと云ふが、他所はいざ知らず滿洲の山の奥では、我慢にも寒くて稱するどころの騷ぎでない、見たばかりで悸乎と寒氣が差す、鬚は口氣で針の如になり時には眉毛さへ氷る事が有る、積雪腫を沒し堅氷發に在りとは實に此事で有る、

その寒さの處へ溫氣が觸れるから堪らない恰度雲が烟りの樣に濛々たる白氣が立騰る人の口からも馬の口からも總身からも立騰る、半里も歩いて汗が出るほど熱苦しくなるので、包被を脫ると頭からも湯から上つた時の如に白氣が立騰る、丸で拳銃を連發した時のやうだ、けれど三里も四里も歩き難い雪の中を歩き通しに歩き續けると、寒さは何でも無くなつて、たゞ前途を急ぐばかりである、

平崗から南の方漈江大甸子に至る五十淸里の間には、一庄毛嶺から西三淸里に方つて人家が二軒あると聞いてゐるけれど、沿道には只の一軒もない、三日午前九時丁輝淸の宿を出て間もなく、だら〳〵と長い小山を一つと一庄毛嶺と云ふ峠を一つ踰ねたばかりで、途中は森林中の道で不相變單調なもの、別に記すべき事もなく珍らしく落葉松林を通過して漈江大甸子に着いたのが午後四時五十分、同知衙門前の開店に腰を落着ける間もなく日が暮れた、

漈江大甸子又の名は龍灣據、漈江郡務同知衙門の在る所で、戸數八十戸許り、西南より東北に向つて爛がれる林間の空地に建てる一小邑である、西北、北、西、西南、南の方面は落葉松の群落を隔てゝ遙かに樹木樹々たる深山幽谷を望み、東北、東、及東南の方面は稍疎なる濶葉樹林によつて取圍まれ、是迄通過して來た立木の隧道は此處で一先づ杜絕ゐて、今の今まで天窓を押ねられてゐたやうな氣が仕たのが、急に擴張りとした、人の棲まふ家らしい家に這入つて人並に感じたからだ、オープン、エアーに出たからである、大森林も此處迄來れば先づ山は見ねたやうなもので、一行も大きに一安心を仕た、そこで滯在一日は人情の自ら然るべき處であらう、

間島問題の回答

間島境界問題に關し我が政府より提出せる覺書に對し淸國政府より今回土們江流域中茂山以下は種々の證據書類あるを以て論ずるの必要なきも茂山上流には幾多の流條あるを以て相當調査の要あるべしとの意味の回答ありたり而して其の茂山以下に於ける證據書類を提出せざるを以て我が政府は之を提供せられたき旨折返し通告したる由

天寶山問題解決

日韓兩國人の經營し居れる間島の天寶山鑛山採掘に關し過般同島に在る淸國官憲より同鑛山採掘權は未だ何人にも許可したる事なきを以て悉に採掘するは不當なりとて之が採掘禁止の命令ありたりとの報告ありたるを以て我が政府は直に吉林巡撫に向ひ事實の有無を照會せしに巡撫は決して斯る事なき旨の回答を爲せるに拘らず其後軍隊を派して強制的に採掘を禁止し且坑夫に解散を命じたるに依り我が政府より直に吉林巡撫に向つて其の暴戾を詰責し一方淸國政府に對し間島を自國の所領視して鑛山採掘を中止するの理由なしとて嚴重なる談判を爲しつゝありしが今回吉林巡撫は其の不都合を我が政府に謝し同時に禁止命令を取消したるを以て天寶山鑛山問題は一先落着せり

暴徒の檄文

忠淸北道院坪市場に於て同地方を徘徊する暴徒は過日左の如き貼紙をなしたり

湖南倡義所務

右廣告は我國士民が天主の德と先帝の恩澤を以てし綱(即ち君爲臣綱と父爲子綱と夫爲婦綱)を明かにし五倫を守りて君は君とし臣は臣とし父は父とし子は子として皆是れ先帝の德なり甲午以後是上は國を倭に侵され土民は驅を倭に奪はされり是れ即ち悲むべきことならずや是故に湖南より先き倡義を開始せしも即ち意は倭に有り然れども吾士民にも罪ある者は殺し有功者は賞し此を以て皆知すにより後錄に依て執行すると

丁未十月　日

倡義所　李

後錄節目

一即ち稅金を取り上げて何所に上納するや然れども取り上げるものも義を以て即時殺す事

一即ち我士民にて狗の如き倭に就て巡檢と稱して倡義の家に赴き唆かす者なしといふ即ち汝亦倭奴なり此等の者も即時殺す事

一即ち旅舍及び問屋にも前日以來度々齎告書を又三叉路にも貼付するも之を施行せず買米等甚だ多し之れ即ち何故なりや以後も買米等あらば義を以て即時殺す事

仁川電話交換狀況

十一月中に於ける仁川港內電話交換狀況を聞くに左の如し但し呼出數、接續數の統計は同月十四、十五の兩日に於てせるものなり

市內電話交換機數	九臺
自働電話交換機數	四臺
加入者數	六一六人
加入者電話機數	六三一個
加入者總呼數	六、二七六度
加入者總接續數	五、一一五度
總呼數の直接續數に對する百分率	八一、五
加入者一人平均呼數	一〇、一八度

因に加入者數中火災のため燒失の厄に遇ひし加入者にして未架設のものを除きたり

仁川穀物出荷數

日	大豆	數	玄米
一	三五二五叺	三〇〇俵	三五叺
二	三七四〇	二七八	五八六
三	二一四二	八一九	三八九
四	二一八六	二一六	一九七
五	一四四〇	一六八	三〇五
六	八五三	一九二	六〇四
七	四一三九	九一	八九三
八	五三九九	二〇七	三五九

此外七日に小麥三五四叺八日に小豆四〇叺の出荷ありたり

文苑

寄懷沒名學士

茫然一劍過半生。何知萬里入醉醒。狂花迷香胡蝶夢。釣絲奕棋桃源洞。蟲鳴乾聲經雨微。秋老帆影帶雲飛。遊跡回看痴達骨。塵中能事只白髮。會晤此情未可期。片心相寄天上月。

聽蟲

秋欲老。蟲皆瘦。鳴咽向晚斷又奏。無風無雲疑雨來。有月有露訝霜茂。十載紅塵一擲輕。儻人白髮是此聲。

過分陪河原過風雨

正慶二年新田義貞。擧義兵。破北條氏之軍處。今無可見者。

落木蕭條眼界空。當年何處擁元戎。痴雲作意橋頭路。一笠雨丸風矢中。

訪梅博士

溫容威風高。獻功致誠赤。投筆法千章。磨硯著萬冊。箕邦劃策見奇才。偉勳須勒南山石。

雲

渡邊霞夫

うつくしき蒔繪ればねてあからめる萬年靑につもるけさの雪かな

おもしろく雪降りにけり石燈籠てよひはあかし入れて見てまし

世の中は眞白になりて家々のけふり目に立つ雪のあさかな

松原も磯のとまやもうづもれて海のうへ黑し雪のあけほの

いつのまに降りかはりけむ夜の雨の音せず成りて雪眞白なり

歳暮

煤をうち松竹立てゝ年々にたなし事してさしぞくれゆく

世の塵に染まぬ宿さへ何となくいそがしげなる年のくれかな

くさ〳〵の贈物してくりすます耶蘇祭る家はにぎはひにけり

今年はと思ひし年もくれむとす思ひしことのなかばだにせで

小說 紅のみだれ(二十五)

永井櫻園

「淸ちやんの氣に入りさへすれば、何より結構だ、折角拵へても氣に入らなくッてはね……。」

と、山田も今更のやうに上下を眺めて居る勇五郎はツイと起つて、兩の簞笥の上に載せてあつた桐箱を取出して、中から黑漆に金蒔繪を施した新らしい見臺を出し

「た目に懸けるやうな品ちやございやせんが、實は昨夕まで琴平で用つて居たのは、ありや淸之助の兄弟子のを借りて居りやしたのでございやす。が、まだ私の考へでは仰々しく見臺なぞの要る事は無いと思つて居りやしたから、拵へて遣る氣もなかつたのでございやすが、お師匠が來て下すッてあれほど人氣が立つたのだから是非見臺一つ拵へて與るが可い、金子に困るなら半金位は立替て遣つても可いと、親切に勸めて下さるのに、これも下等なのでも不可いからと、喧しく賴みますので、苦しい中から貴方、何うせ拵へて與るならと思ひやして私等の身上には不似合でございやすけれどお師匠の厄介にもなつたり、自分でも商賣の資本を減りまして、今晩から間に合ふやうにと注文して置きました所が、好い鹽梅に出來上つて昨夜持つて來て呉れやした、上等を見りやア限がございやせんが、私等の身分では此品でも上等過ると思つて居りやす、それに又貴方から斯う云ふ立派な舞臺衣を頂戴致しやして、これでは甚麼晴の席へ出ても退の取りッこはございやせん。」

と、長口上を述べて山田の前に見臺を出した。山田は有繁に藝術家とて、其の見臺を左觀右視眺め興るに、可也贅澤しく金蒔繪を塗上げずして、淸之助の紋所である丸に橘を金蒔繪にしたばかりで、塗もなかなか上等であるのに、房も白と紫の染分で、誰の注文かは知らぬが、淡泊と上品に出來上つて居る。

「イヤ、大層立派な品が出來ました、漆と云ひ金と云ひ、それに第一誰方の好か知らないけれど、總の配合が大變上品に出來て居ます。眞箇これぢや何處へ押出しても大丈夫です。」

と、激賞する。勇五郎は

「なあに、賞めて貰ふやうな品ちやございやせんが、贔負にしてやつて下さる貴方だから目に懸けたのでございやす。」

「どうして、これだけの見臺を拵へさせうと思や、容易な事ちやありません。」

「へゑ、眞箇でがす、これでも貴方二十[illegible]取られやした。常人の身では[illegible]何でもありやせんが、私等の身分では容易な事ちやありやせん。」

すると淸之助が

「山田さん、貴方今晩は遠方ですから、ど[illegible]も出掛け下さる理には願はれないでせうね。」

と、突如に問ひかけた。此時勇五郎は何と思つたか

「私ア些と失禮しますから、どうぞ御緩[illegible]と御話し下さいやし。」

と、其まゝ起つて戸外へ出て了つた。山田は淸之助の問には答へないで

「お父樣には初て會つたが、なか〳〵人の良さそうな方だが、あれで何時やらの[illegible]に諫めるのかね。」

「飲まない時は然うでも無いですが、飲[illegible]だと來たら、何時でもあの通りですから[illegible]く困つちまひますわ。」

「見掛に依らないもんだね。」

（二）（第三種郵便物認可） 明治四十年十二月十二日 京城新報 （木曜日） 第廿八號

東京電報

▲伊東中將の免職

職工の罷業を惹起したる海軍中將伊東義五郎は本職を免じ待命を仰付けられたり

▲從軍徽章下賜

三十七八年戰役に從軍したる新聞記者百五名に對し從軍徽章を下賜さる

▲北海道の暴風雪

北海道にては暴風雪のため潰屋二百戶壓死者三十名を出せり（以上十日午後發）

雜報

官制の行惱み

宮內府官制既に出でたれば施政上の都合一般官制の發布を急ぎつゝあるも各大臣側にありては豫算の見込なきを理由とし統監府と數回の交渉を重ねたるも未だ調停するに至らず一昨日も副統監は各大臣を官邸に招集し種々說示する所ありしと雖も韓國の實力は實際に於て全部法令の意見に從ひ難しとの意見を有し居れば今後數回の協議を經るにあらざれば圓滿なる解決を見るに至らざるべく從つて新官制の發布は來春に延期せられ此過渡期に於て行政上勘なからず擾亂を生ずべきを以て曾根統監代理は極力しつゝありといふ

來年度豫算の缺陷

四百七十三四万圓

韓國政府は目下光武十二年度の豫算の編制中なるが韓國側の說に依れば六百萬圓の不足を生ずる由なれども吾人の聞く處によれば實際の所謂四百七十三四万圓の缺陷なる由之れが爲め官制改正の實行も頗る困難の狀態にありと然れども當局者は主として之を借款の殘餘に依りて補塡する意向なりと云ふ

政治運動愈々急なり

內閣改造のことに就ては曾て記せし所なるが之れが爲め各所に於て政治上の運動益々激しくなりしが就中之れが表面に立て運動しつゝあるは一進會の一部と亡命者の一部なりと云ふ

義和宮の歸韓に就て

義和宮歸韓に就ては本紙の逸早く報道せし如くなるが右歸韓に就て英親王が皇太子となられし事を不快に思ひ且つ英親王留學の爲め渡日せらるゝに付き親王と面を合すは快からずとし歸韓せられたる由報ずるものあるも吾人の聞く所に依れば曾て記せし如く他に意味あるにあらず單に財政整理の爲め歸韓せられたるに過ぎざるなりと

宮內府各課の移轉

宮內府大臣官房各課（主馬課を除く）帝室財產整理局內藏院は今明日中に東宮御所たりし樂善齋、錫緞軒、養康齋に分移し其他各衙は成るべく官房附近に引纏め事務の統一と進捗とを圖るべく近日中に現大臣官房廳舍及其附近に移轉すると云ふ

一進會員の郡守候補

今回一進會員中より郡守二十名を出すべしと云ふ左るにても地方に於て不人望なる一進會員を郡守として送りなば益々地方暴徒に騷擾の口實を與ふべし

自衛團の消息

去月各地方に向ひ發程したる一進會自衛團の狀況を聞くに黃海道方面に向ひたる一行は目下海州にありて非常に困難に陷り其費用さへなく同郡衙內に宿し一歩も他に出る能はざる狀態にありと、原州、忠州方面に向ひたる一團は途中に於て脅迫を受け金員を取られ漸く洪州に着したるも之又た費用に窮するに至り爲めに同地の人民を脅迫して其費金を得つゝあり楊州方面に向ひたる本隊とも云ふべき一團は比較的功果ありしが如しと

●李大使の着京

答禮大使李載覺氏は去る八日馬關より東京に向ひ九日午前十時三十分新橋に着し宮內官其他多數の出迎を受け旅館たる帝國ホテルに投せられたり大使の滯京は十日間の豫定なりと

暴徒被害の各機關

本年七月以降各地暴徒蜂起の爲め徵稅機關の被害鮮少ならず或は其廳舍を燒棄せられ或は文簿公金を掠奪せられ或は稅務官吏を殺傷せられ既に開廳執務中のもの終に閉廳の己を得ざるに至りたるもの又は開廳の準備既に整ふも終に開始すること能はざるもの頻々相接す、たとへ此の如き極端に至らざるも暴動區域は一般に徵稅機關の運用を阻害し歲計上に及ぼすべき損害擧げて數ふ可からず今暴徒橫行の爲に閉廳若くは未開廳の狀況を示せば左の如し

度支部稅務署の暴徒の爲に閉廳せしもの

紅原道　原州、金城、鐵原、　錦山　京畿道　驪州　黃海道　松禾

度支部稅務分署の暴徒の爲に開廳し得ざるもの

京畿道　竹山、加平、朔寧、漣川、麻田、楊根　江原道　華山、准陽、伊川、蔚珍、高城　洪川、襄陽　忠淸北道　鎭川、報恩、提川　陰城　全羅北道　高敞、茂朱　慶尙北道　新寧、興海、聞慶　黃海道　兎山

財政顧問分廳の暴徒の爲に閉廳せしもの

江原道　原州　黃海道　松禾　全羅北道　錦山　慶尙南道　威陽

財政顧問分廳の暴徒の爲に開廳し得ざるもの

京畿道　驪州、抱川　江原道　鐵原、金城　忠淸北道　提川　平安南道　成川　慶尙北道　義城、興海、榮川　慶尙南道　陝川　居昌　黃海道　甕川、安岳、新溪

●礦務費不足

平壤礦務所豫算不足額四千七百六十餘圓は農商工部より度支部に向て支出を請求したりと云ふ

●京城民團議會

京城居留民團役所にては來る十三日頃民會を召集し議會を開く筈なり議題は過日の民會にて決したる南大門內小學校敷地買收費一萬五千圓起債を見合する件其他二三緊急を要すべき案件なりと

岡部領事留任請願

安東縣駐在岡部領事は新義州理事官を兼任せられ居ることなるが此頃同氏が他に榮轉せらるゝの噂あるを以て安東居留民は右噂の事實とならんことを恐れ今回外務省に向て同氏留任の請願をなしたりと云ふ

馬谷里の暴徒

七百餘の匪團＝二回の大討伐

提川守備兵三十名は提川警務分署巡査二名淸風分派所巡査三名及び朴警視の率ゆる巡檢隊十二名と協力して堤川郡馬谷里に集合中の匪徒約七百餘名の集團を討伐すべき目的を以て去る三日出發せしに賊は早くも我が計畫を傳へ聞きて已に淸風郡北面安鶴里に退却の後なりしを以て直ちに追進し同所南方に於て賊徒を發見せしを以て直に高地を撰びて射擊を開始したるに彼等は狼狽して應戰の遑なく匪徒中約三百名は淸風郡南面方に向け他は四散して潰走せり首魁は李仁寧なる者なりし、此追擊により賊の乘馬一頭を斃したる外日本產乘馬韓國產駄馬各一頭火繩銃三挺を鹵獲せり、十二月三日朴警視の率ゆる巡檢隊十二名は堤川守備隊と共に忠州提川兩郡より安閒里慈鵲洞方面に集合中の約七百の匪徒討伐の策を定め守備隊は安閒里を包圍し戰鬪約一時間に涉りて賊を潰走せしめたり慈鵲洞にありし賊は死傷七名安閒里にありし賊は死傷九名關東右軍砲隊將金春伯なる者を擒にす鹵獲品は火繩銃三挺駄馬一頭彈丸七發火藥二斤其他雜品若干

各道の首魁

韓國各道の暴徒には各首領を有し全韓の暴徒間に聯絡を保ち居るものなるが各道に於ける其首領を擧ぐれば左の如し

平安道及黃海道朴義燮、京畿道の長端金季敏、黃源道嚴源金圭植、黃源道麻田許爲、京畿道砥平李麟榮、京畿道提川李康年、黃海道海州閔肯鎬、

暴徒襲來と憲兵派遣所

一昨夜半頃水道水源地纛島の川向に暴徒七十名許顯はれたりとの報ありて憲兵數名出張せしに同地には其の形跡見えざるも纛島より一里餘を距る某寺院に屯集するとの說あるを以てこれに向つて進入したりと因に憲兵隊にては近來同地方が甚だ物騷なるより纛島に當分の間有力なる派遣所を設置することゝなれり

暴徒の揚言

本月六日廣州郡慶安面獸技洞に暴徒約五十餘名襲來し一進會員の家屋全部を燒棄すと揚言し居る旨一進會員よりの密告を得慶安面分派所は之れが狀況偵察のため巡查數名を同方面に出張せしめたるも暴徒は既に去つてあらず只五浦面外洞に三名の暴徒潛伏し居るの情報を得たるを以て同夜は獸技洞に一泊翌七日午前五浦面洞に着搜索の結果僅かに二名の暴徒を逮捕するを得たるも首魁鄭成五は遁走せり

暴徒金井里に襲來す

去る八日金井里河島特務曹長の報告によれば七日夜賊徒三十餘名金井里に襲來すべきよし土民の報道に接し部下と共に急行午後七時金井里に至りたるに賊約三十餘と會し約五十分間の交戰の後賊は闇夜に乘じて四散し仲安方面に遁走せり賊の遺棄せる死体九負傷二鹵獲銃二彈藥若干韓錢百九十文居一其他雜品若干

風を望んで走る

首領李九彩の率ゆる暴徒二百餘名は元込銃百五十餘挺を攜帶し去る二日午後五時頃驪州郡杜面住岩洞の北方三里の地に來りたるも前日及其當日驪州より驪川討伐隊の同方面及砥平郡三山里附近に行動せしことを聞き狼狽して橫城方面に立去りたりといふ

●黃海道排日現象

黃海道內各地方にては近頃韓國人の良民間にも一般に日本商人が內地に深く入込み單獨に行商或は開店することを厭ふ氣味あり現に過日砂里院より三里を距りたる銀波に於て大塚文九郎なる雜貨商人が襲はれたる時も同地方の良民は一生懸命殆んど我れを忘れて同人及び家族の生命を保護せしも賊の退却せし後はその筋に向ひて日本商人入り込み居りては賊の襲擊し來る虞あれば至急引揚方を命せられたしと出願しその他二三の地方良民よりも同一の願ひを出したりといふ果して然らば是れ匪徒を恐るゝの餘り日本人の居住を厭ふものにして要するにこれも亦た匪徒の跋扈より生ずる一種の現象ならんといふ

愛國婦人會彙報

△救護部會　昨十日午後二時倭城俱樂部に開催香阪委員長兒玉古谷津輕加藤小田柿佐々木朴洲卿前間巨知部黑田三宅淺見本多木島井出香阪（琴子）橋本等の各部員出席講師能勢博士の挨拶ありたる後精神と神經との關係より精神感動の身体に及ぼす影響の大なるを懇切に講話せられ健全なる身体には健全なる精神宿るとの諺言あるも健全なる精神に健全なる身体の伴ふものなれば個人に於ても家庭に於ても精神衛生こそ衛生上の根本義なりとて種々興味ある例を引きて講話あり次で村上醫學士は傳染病中肺病の恐るべきこと肺病患者の攝生及肺病患者に近接する者の注意等に付き懇切に說明あり終て能勢博士よりも結核及梅毒等慢性傳染病が却て虎列拉ペスト等の急性傳染病よりも恐れ且つ注意すべきことを說明あり右にて講話を終り夫より衛戍病院慰問等に付打合せありて午後五時散會したり

△米國總領事夫人の篤志　米國總領事サモンス夫人は愛國婦人會の事業を贊成せられ黑田夫人を介して金十圓を寄附して賛助員となれり

津輕伯歡迎會

一昨八日日本人俱樂部に於て舊津輕藩士一同が這回來韓の舊藩主宮內府書記官津輕英麿君を歡迎請待せしが數十名の來會者あり主客歡會近來の雅筵なりしが其折發起人總代の述べたる歡迎の辭は左の通りなりき

津輕家は我々の舊藩主にして今の英麿君は這回宮內府書記官として韓國政務の職に當らるゝの故を以て斯地居留の我鄉黨等は最深遠なる因緣を追ひ茲に滿腔の熱誠を捧げ謹て斯君の爲に歡迎の筵を開きし所以也

君夙に國士の天職を知り華胄の家に生れて而かも金殿玉樓に安んぜず孤劍起て鯨濤鵬雲を越え滿洲に遊學する者十有六年研讚修養得る所少からず今や我祖國の爲め進で其保護國の啓發に盡す所あらんとす蓋し君が一片の丹心と滿腹の經綸は必ず其任を全ふし廣く斯民の爲に扶植する者太だ大なるを預期して疑はざる也

我鄉黨等は常年の舊藩士と偶然此地に於て居を同ふするを榮とするのみならず今一堂に會して君が人格の高雅なる其襟度の灑落なる我鄉黨を見る恰も齋の如く曾て八歟を以て自分尊とするが如き俗吏を學ばざるのみならず此韓國の如き官尊民卑の甚しき群俗の間に毅然として之が特性を保持せらるゝを景慕して歇ざるなり終りに臨て深く君に希望するは君が韓國維新に際し之を善導啓發せらるゝの餘暇我鄉黨子弟の爲に指導啓發に意を用られんことを深く切望して止まざる也

●三浦理事官の晩餐會

三浦理事官は本日午後六時より京城教育會役員を日本人俱樂部に招待し晩餐會を催さるゝと云ふ同席上に於ては女學校設立のことにつき協議あるならん

●京龍民團議員の招待

京城、龍山の民會議員は來る十四日午後六時より花月に於て親睦を兼ね三浦理事官を招待し宴會を開くといふ

●タフト氏

米國陸軍尙書タフト氏は本月三日露國皇帝に謁見したり、在露京米國大使館に向て一朝太平洋上若しくはフリツピン群島に事あるの日は義勇兵として從軍したしと申込める露國士官多數ありと云ふ

●鈴木稅務部長出張

度支部稅務部長鈴木穆氏は同司稅局長元應常氏と共に昨日開城に於ける參政調査の爲め同地へ向け出發したり

礦業權許可

其後許可されたる礦業權は左の如し

慶尙南道陝川郡縣內面　金礦　一七〇、〇〇〇坪　京城明治町一丁目廣川方岡崎仁三郎

同郡各寺面　金　七六一、一六六坪　同人外一名

平安北道龍川府新島面　鐵　九三、七八〇坪　平安北道龍川府龍岩浦居井町宮崎兼松

韓國の屯田傳道

（日本佛教徒の活動）

曩に長谷川泰氏等の志士相謀り大隈伯を總裁とし僧俗知名の大家發起者となり海外傳道協會なる者を設立し東京に先づ滿韓傳道學校を設立し遣外傳道師を養成せんとする擧あるや該發起者の一人たる淺草區象久町仙藏寺の住職小野清秀は此海外傳道の實地豫備法として韓國屯田傳道を施行せんと欲し來四十一年一月早々渡韓する由にて其屯田傳道の要法は領事の報告によれば韓國にては田地上田一反二十五圓畑一反十五圓なりとの事なれば今假に一萬圓の資本を以てする時は金七千五百圓にて田地三十町を買ひ又三百圓にて畑二町を買ふも其合計七千八百圓なれば殘り二千二百圓を家屋農具及び初年の食費として斯くて自ら耕す時は租稅其他雜費を引去り次年より優に五十人の傳道者を養ふに足る次第なれば我が國より私立大學の卒業生又は宗教家中の意志の强く一日四時間以上勞働に堪ふる者を撰拔し移任せしめ之れに韓國の有爲なる青年志士をも加へ外に內地より經驗ある勞働者を一町步一人位の割合にて連れ行き半農半學生として宗教々育及び舞術を教ふれば第一に學費を要せず其他一切の經費日本三分一以下にて事足り其上土着的となり地理風俗言語を覺ゆるに便にして彼我同化し極めて實用的傳道者を得易し又た其有望なる者には更に田地一町步を別に貸與し自ら耕しつゝ傳道せしめ其一村落丈を自己の受持として感化し遂には教育衛生村治の事も一切其の手に歸し村父村師たる世話役となり茲に理想的の小村落を實現するに至り斯くして二十年の後には韓國全たく日本的否日本以上の理想的民族となる漸次之れを滿韓に及ぼさば世界の中心茲に定まるとのことなるが小野師は微力をも揣らず自己の全財力を擲ち二千圓の資本にて着手する事とし來年一月十日前に出發の豫定なりと

東京金融の逼迫

昨今金融市場は遽かに緊縮の狀を呈し來り手形の割引日步は普通二錢三四厘の高値を唱へ居れるが目先き歲末に近づき資金の需要愈々多きを加ふるに從ひ金融は益々逼迫を告げ此上尙ほ二三厘方の引締を見るべき形勢なり右に就き有力なる某銀行家は語りて曰く「歲末に於て金融の逼迫を來たし金利昂騰を告ぐるに至るは每年の例なれども今年の氣勢は一層甚だしきを見るが如し是は畢竟先般來歐米の恐慌と銀價暴落の影響を受けて生糸綿糸の貿行不況を極めたる結果資金は之れに固定して更らに回收を見ざるが重なる原因をなすは明なれども又た他に今日の逼迫を助成したる一大原因の存するを認めずんばあらず何ぞや曰く政府財政の逼迫にして政府は法律を楯とし絕えず巨額の大藏省證券を發行して日本銀行に引受けしめ以て民間資金の吸收に勉めたり民間に於ては其資金を銀行に預入するより比較的高利なる大藏證券に投ずるを以て收益多きとなし銀行預金を引出して爭ふて大藏證券を引受くるに至り此結果銀行の預金は遽かに減少を告げたるのみならず一方預金の引出に應ずる爲め更らに商工業者への貸付金をも回收せざるべからざるに至れる程なり然るに翻つて政府側を觀るに大藏證券にて得たる資金は之れを政府直接の事業に投じ償還期來るや更に借換を以てして更らに現金を償還する事なし斯かる實情なれば一時政府の吸收の爲めに採れる財政々策も今日に於ては却つて金融逼迫の大原因を爲すのみならず延いては一般商工業の萎靡を來さんとするに至れり」云々

撫順炭の初輸出

撫順炭は未だ海外へ輸出するに至らざりしが今回三井物產會社[illegible]海輸出の目的を以て同炭を[illegible]所有の汽船を雇入れて去二十[illegible]れに着手中なりしが結氷の[illegible]二十六日迄に約一千五百噸を[illegible]拔錨出帆したり是を滿洲に於ける撫順炭輸出の嚆矢と爲す

公人私人

▲後藤猛太郎（豪華聽民合資[illegible]）巴城館へ投宿せり

▲權藤四郎助（財產整理局事務官）[illegible]投宿

▲竹藤濱五郎（埼玉縣辯護士[illegible]）投宿

▲治外法權▼

去九日の夜日本人俱樂部に於ける三浦理事官の[illegible]は其出席者の數より其顏觸[illegible]三浦理事官が肝煎だけあつて[illegible]盛會であつた、追がはニユ[illegible]で一寸氣が利いて居つた▲[illegible]煙草を配つたなぞは外では[illegible]のであつた其言に曰く自分[illegible]三浦君の挨拶は大に君の面[illegible]上下の間に挾まつて居るもの[illegible]ラにも良い樣にすれば何に[illegible]止むなくんば云々今の三浦[illegible]重盛と云ふ格である居留民[illegible]心事を解して彼に信賴し大[illegible]せべきである▲一昨日は商[illegible]があつた此所の御馳走も[illegible]つて大に來賓を滿足させた[illegible]骨者と思つて居つた氏が[illegible]の趣向をせられたには一寸[illegible]た、序に曰ふが今度新築會[illegible]壘も敷てあり又碁將棋も備[illegible]には余所へ行かずに此所へ[illegible]る平民同志集合すれば必ず[illegible]が持上がることゝ信ぜらる[illegible]昨日の本紙三面の記事に黑[illegible]領したと云ふ記事があつた[illegible]へば日露戰役中なら余現職[illegible]聞けば黑田某は通辨稼業で[illegible]居るものだソウである、[illegible]占領を誇つて居るものだ[illegible]團當局者は必ず彼の鎭[illegible]あろう、ソウして彼の使[illegible]かの懲罰を加へるであろ[illegible]本欄に入るのは事柄が[illegible]る黑田某なる者大に名[illegible]

京城たより

芝堂

◉韓國は目下過渡時代にして亦試驗時代なれば、法律制度共に可成簡易に且つ實際的なるを肝要に候、仰山なる献立表を作るよりか、直ちに茶碗と箸の主義こそ刻下に適切に候

◉方今第一の急務は地方警察力の增大に候 當局者第一着の義務は地方鎭定の業に候、地方の秩序回復せざれば、万事休止の外無之候、故に今日は何事も後廻しとして先づ地方の鎭定に全力を傾注せられたく候、何程韓國經營を叫び立て候ても、目下の所手も足も延び不申候

◉よし幸にして地方暴徒沈靜致候とも、當局者の最も用意せられたきは警察力の普及に有之候、居留民の生命財産を保護すべき機關力缺乏せば、吾人は安心して地方に活動する能はず候、殖民地の理事者は宜しく殖民の發展を助長せしむるに努めざるべからず候

◉渾沌時代の行政は先づ基礎を警察力に置かざるべからず候、徴税、勸業、調査、衛生、其他萬般の事業、多くは當分警察力の補助に依らざれば、滿足なる効果を收むると困難に候

◉殊に曖昧なる地方人民の係爭事件の如き其大半は裁判所に於てするより乎、警察官に於て臨機行政上の取扱を以て斷訟せば人民は却つて簡便を感じ可申候

仁川驛貨物係の不埒(三)

一二運送屋と結托して同業者に迫害を加ふ▲捏造記事を新聞に投稿して同業者を中傷す▲仁川運輸業妨害者

▲貨物主任は池見與五郎

以上各運送業者中浦元、河野、中村、山下、協同組等に對しては極力信切を盡し貴力なくして運賃を納入する能はざるものある時は自己の懐中より之れを立替へ又は運賃規定を犯して不法の運賃を徴ずる事あり又平田中條、廣安號等に對しては甚だ不信切なるのみならず平田の如き信用資力共確實なるものなるにも不拘徹頭徹尾迫害を加へて倒さゞれば止まざるが如き暴逆を敢てしつゝあり今彼れの罪狀を一、運賃不法徴收二、事務の不公平三、職權濫用と迫害四、職務規律違反五、賄賂收受の五に分ち順を追ふて一々證據を列擧すべし

一、運賃不法徴收

仁川驛貨物取扱方法は噸扱、斤扱及重量扱の三とす、斤扱とは貨物の實斤數を計量して其運賃を定むるもの(南大門迄百斤二十錢四厘手數料四錢)噸扱とは噸を標準として運賃を定むるもの(同一噸一圓二十四錢發着手數料三十錢)重量扱とは實量の多寡を問はず一貨車を徴收するものにして假令一車に充たざる時と雖も一貨車分(二十六噸分)を徴收するものにして本年七月十三日より實施し貨物は材木類に限り仁川より南大門驛(一噸七十五錢)龍山驛(六十八錢)に送附さるゝものにのみ之れを適用す(注意右二驛外の地に送る材木は總て噸扱とす)略以上の如き制度なるが彼れは此規定を犯して不法の運賃を徴收しつゝあるなり、左に右各運送店に對する取扱の實例を列擧せん

●郵便物被害 滊船金剛丸が本月八日午前二時西湖津を發し元山に向ふの途次虎島沖にて沈沒したることは既報の如くなるが同船に搭載しありし通常郵便行李三個小包郵便行李二個とも全部引揚の見込みなしと云ふ

●火災保險會社創立の計畫 當地本町三丁目の古城營堂、中村再造、南大門通和田常一、仁川港の秋田毅、那金三郎、韓人元内部協辨李鳳來の諸氏發起にて東洋火災保險會社を設立せんとの計劃ありて其の資本額は一株五十圓二万株卽ち百万圓の株式組織と爲さんとのことなりと

●日々支局の移轉 朝鮮日々新聞社支局は是迄旭町四丁目に設置しありしが昨日より同一丁目に移轉したり

●貧兒救幻燈會 十日夜西大門ソンタック邸黒田太久馬氏宅に同寮の幻燈會を催し閉會後同氏は氣焔萬丈慷慨的の話を菊池渡邊の兩出頭員になしたりと言ふ猶十一日夜統監府會計課大橋次郎氏宅に於て該幻燈會を爲し翌十二日漢城病院婦人科部長工藤武城氏の宅に於て催す筈なりと

●木浦の初霜 木浦にては十一月二十一日初霜降りたり平年に比し十三日遲く最も早かりし三十九年に比し十九日遲く最も遲かりし三十七年に比し四日遲かりしと

無情强慾(三)

爰に中元ミヨは折角にも尋ね來りし伯母の所在判らず倫しや故郷に歸りしものかと思へど海上遙けく隔たり居りて束の間に其の消息を聞き知る由もなく兎やせん角せんと思ひ惱みて旅屋住居に一日二日と送る内宿料は嵩む途方に暮れて或日目的もなく市中を彷徨へる折しも向ふよりミヨさんではないかと聲を懸けし者あり誰人にやと見れば從兄に當れる氣長大六といへる者なるにぞ地獄で佛に逢ひし心地して嬉し泪にむせかへり暫時は言葉も出でざりしが大六は窶れ果てたるミヨの姿を見て仔細ぞあらんと推量し爰は途上にて談話も出來ねば何は兎もあれ我家に來るべしいざ伴はんと引き立てゝ連れ歸り一別以來の變轉を互に問ひつ答へつしてミヨが伯母なるくもに逢ふて報謝の意を述べんとするは洵に殊勝の心根なれどもくもは生來惡性者にて煮ても燒ても喰へぬ奴我も久しく此の地に住み彼は今南大門外米倉町に轉宅し居れども彼も來らず我も行かず彼れの眼には金錢の外に親もなければ兄弟もなく況して姪などに不便を加ふるなどの心得は露ほどもあることなし想ふに御身に藥料や旅費を送りしは此の地に呼び寄せ五十倍か百倍かの金にせんとの下心なることは鏡にかけて見るよりも瞭かなり寄りつかざることこそ御身の爲ならんと嚴されて伯母の名を聞くさへ怖ろしくなり其の所在を尋ね得ざりしこそ天の助けにやあらんと打ち嬉び大六夫婦の親切に世話し呉るゝまゝに此所に滯在する内に南山町二丁目に住へる長崎縣の者にて大工職をなせる小島久米八といへるが妻に迎ひんと請ひ大六も此の者なれば熱心に職業を勵み末々の見込もあれば良緣ならんと勸めければミヨは速く已に久米八と人知れず深く契りを結び居りしと見え直ちに承諾し風呂敷包みを自ら携へ簡單なる嫁入の式を擧げ夫れより夫婦睦じく今日が日まで暮らし居けるが月に叢雲花に嵐の諺あり彼の鬼伯母なる中元クモが尋ね行き爰に一悶着を釀したり

●安東縣が戀しい 近者西小門外の或る温突の窓より淫賣らしき婦人が時々餘り感心しない顔を出し彼方の空を眺めては何かは知らぬ深き思に打ち沈みホロリと落つる涙の雫に覺へず袖を霑ほす模樣なるにアハテ不思議などダン〱身の上を探つて見るとソレも道理此の女こそは以前仁川築地の或る生蕎麥屋に女中奉公をなす中同地の或る男に首ッ丈となりしは好きも男の方より秋風を立てられし口惜しまぎれに安東縣へと高飛びをなし同地の安東旅館とかいふ料理屋に住み込み以前の意趣返しにと許りに懸命の力を振つて好いた男を作らんものをと鵜の眼鷹の眼毎夜寄り來る客を吟味せし結果或る商店の番頭にて遠東とかいふ丹次郎的の男と深く情を交し合ひ暫し甘露の如き戀に樂しき夢を貪ぼり居りしが滿つれば缺ぐる譬への如く又もや其の男に嫌はれ且つ主人よりはフトした間違ひより暇を出されしかば已むなく當地に漂ひ來り以前の温突に頼りなき身をば寄せ居るものなるが何としても其の男が諦められず雲は幾重か道遠き安東縣の空を眺めては明暮歎果なき思に泣き沈み居るとか、して女の名は毛利タキさかにて生れは廣島縣吳市なりと

●小間使逃走 農商工部大臣邸の小間使ちよ(十九)くに(十八)の兩名は一昨夜夕食を爲したる後他出して遂に歸り來らず何れにか逃走したりといふ

●銀行店頭にて掏摸 西小門内總税務司廳員吉武彰氏が昨日正午過第一銀行に抵り金四百十五圓を受取り外套の隱しに入れ置き他の用務を辨ずる間に右金員を何者にか掏り取られしと金錢を取扱ふ者宜しく注意すべきなり

●笹本商店の大賣出し 同店は本町二丁目に移轉し今度大發發の廉價にて去る十日より本月中景品附大賣出をなし五十錢毎に福引券一枚を呈する由委細は廣告欄にあり

●坂本座の替狂言 坂本座に於ける若葉會新演劇は寒いのにも拘らず毎夜好評を博しつゝあるが本日の替り狂言は小笠原白也作「嫁ヶ淵」にて重なる役割は左の如し

醫師原田(岩尾)校長邑井(池田)女中たふく(花井)江川定吉(千鳥)春越子爵(若宮)れざく(吉田)定吉妻たいと(橋)矢上妹れりか(高木)書生青木(正月)敎員矢上政八(小喜多村)娘たかめ(小山)井原弓子(東)番頭泉冷助(永島)下男八造(瀬川)代議士井原(鈴木)定吉伜太郎(小鈴木)

●鹽芥箱

▲仁川料理屋は此頃非常に不景氣の由だが此れを以て仁川一般の景氣を推定するに難からぬ(經濟生)▲仁川萬石洞は未だ野原であるが一体彼地はどうする積りでしよう(殖拓生)▲仁川監督の棚卸しはモー終局ですか(伺生)▲他は皆評に上らぬ代物故略します(半可通生)▲南大門通の道路は目下修繕中なるは好けれど雨降りなぞには泥田の如になりて我々車夫に取りては大に困る早くロールを以て堅めて貰ひたい(痩車夫)▲居留地に辻便所がないので折角清潔になつた小路は又々糞尿が流れて波の如くなつてる所もある何とか方法を講じて下さい(豚臭生)▲花月の房江に大變肩入れする者も少からずとのことだが同人にはチャンとアノ人が付いてるからダメだよさ(非房江)▲近頃はビョプチャヅの語が聞へなくなつたがこれも統監政治のお蔭か知んテ(アイゴー)

資本金三百万圓
株式會社 第五十八銀行京城支店（電話五八番）

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壌 鎭南浦 安東縣

爲替取組先

内地 二十七ケ所　東海道 十三ケ所　山陽道 七十五ケ所　南海道 二十三ケ所　北海道 五十ケ所　臺灣 二ケ所

東海道 二十ケ所　北陸道 十ケ所　山陰道 十三ケ所　西海道 三十ケ所　韓國 九ケ所　清國 一ケ所

（三）歳暮大賣出

福引券進呈　京城本町 龜屋

○一等景品 金壹百圓 三越龜屋商品切手
○二等景品 銀コーヒーセツト 一組
○三等景品 モヘル膝掛 一枚
○四等景品 ラクダ毛布 一組
○五等景品 羽根布團 一枚
○六等景品 シヤンパン酒 一打
○七等景品 白毛布 一組
○八等景品 白葡萄酒 一打
○九等景品 色毛布 一組
○十等景品 トランク 一個
○二十七等 枕蒲團 一個
○五十等 襟卷 一筋
○百等 肩掛 一枚
○餘は略す

例年之通來七日より十二月三十一日迄金參圓毎に福引券一葉づつ進呈仕候今回は大勉强一本もからくじ無之候來一月十一日午前九時籤引擧行仕候

電話二十七番

内外書籍新聞雜誌
和洋雜貨日用品
文房具學校用品

大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢
同 毎日新聞 一ケ月四十五錢

京城本町三丁目 平田商店（電話百十五番）

福引歳暮大賣出

京城本町 四ケ所商店

● 一等 上白米 十俵
● 二等 天鵞織出美術屏風 一本
● 三等 モヘルヒザ掛 一枚
● 四等 皮旅行鞄 一個
● 五等 色毛布 一組
● 六等 葡萄酒 一打
● 七等 座布團 五枚
● 八等 毛皮女首卷 一本
● 九等 美術研出角卓子 一脚
● 十等 清酒（正宗） 一樽
● 五十等 商品切手（十圓） 一枚
● 百等 上白米 二俵
● 以下省略

本月十日より三十一日まで金貳圓毎に福引券を進呈す
大勉强からくじなし
一月七日午前十時籤引仕候

電話三二一番

銀行一般業務精々御便利に取扱申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

株式會社 十八銀行京城支店 京城南大門通（電話四二〇）

本店 長崎市築町
支店出張所
韓國 京城、龍山 仁川、木浦 釜山、元山 州、群山
日本 大阪、本 佐世保、嚴原 五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

諸官衙御用品調達
各學校用品調達

營業科目
紙類書籍　印刷附屬品　印刷インキ　防腐デシン　穀物食鹽　織物染料
并に委托販賣

東京合資會社アライアンス商會代理店
横濱百七十六番ビユームエンドライフ商會代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
支店 仁川港町二丁目（電話一五番）
出張所 東京京橋區南鍋町二丁目（電話新橋三九六二番）

一各種石炭大販賣

大ノ浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭

ストーブ用トシテ右三種取寄セ貯炭罷在リ御希望ニ從ヒ多少ニ拘ハラズ迅速御屆ケ可申上候

三池粉炭

鍛治用トシテ貯炭罷在リ多少ニ係ハラズ御用ニ應シ可申候

當社一手販賣炭左之通リ
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波、黒、藤棚
本洞、大ノ浦五尺、大ノ浦三尺、笹原、滿ノ浦
芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物産合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

業務擴張廣告

謹啓各位愈々御清穆奉敬賀候降テ弊店儀開業日尚ホ淺キニ不拘諸彦ノ御引立ニ依リ日増隆盛ノ域ニ相進ミ候段難有奉鳴謝候就テハ今回東京ヨリ斯業ニ精通セル職工數名ヲ雇ヒ入レ洋服一式廉價ヲ旨トシ御注文ニ應シ可申候間多少ニ不拘御用命被仰付度奉願上候也

鳶 東コート　毛布類 脊廣服　毛織物 各仕立物　文官服 警官服　刀劍類 付屬品

東京塚原支店
商原雄吉
京城明治町一丁目

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店及出張所
韓國支店及出張所
清國出張所

大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市
仁川、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
下關、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、
平壌、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 三島太郎
副支配人 調査部長 竹山純平
副支配人 營業部長 木村雄次

電話番號 營業部 一一番　當直用 同 二一番　營業部 三二二番　國庫部 六二一番　用度係 六六二番　分析所 六二三番

西洋御料理宴會

日本人倶樂部

京城南山町三丁目（電話一二三番）

熊平製造金庫
東京 竹内製金庫
大阪二重版並ニ回轉式 消火器

韓國販賣部 京城本町一丁目
熊平商店
電話六二四番

豫約出版廣告

東宮殿下御渡韓紀念
京城居留地及名所舊蹟 寫眞版（コロタイプ）帖（横一尺三寸 竪九寸五分）

右は皇太子殿下御來韓に際し京城居留民團より献納の榮を得たる者にて今回爲紀念出版することと爲せり豫約希望の向は部數に限り至急御申込相成度し

一部 定價 金三圓 豫約金 二圓五十錢

一 豫約申込期日 本年十二月十五日限り
一 出版送本期日 本年十二月二十五日

本帖は原版に依る寫眞版（コロタイプ）にして出版者及寫眞師は民團の依囑に應じ圖案及寫眞に意匠を凝せし者なれば其の精巧は毫も献納品と異なる者なく表紙も亦原圖に依り金入緞度摺の緻密精巧なる石版に附したる者なり

明治四十年十一月

出版者 杉原忠吉
寫眞師 岩田鼎
京城南山町二丁目 野村孝造

豫約申込所 京城本町五丁目 日の出屋

統監府 各官衙 御用
荷物荷造及運搬

伊藤組 伊藤友松
本店 本町三丁目（電話七百三十二番）
營業部 曙町（電話四十番）

直輸入荷着

新荷着
セメント特約販賣

涙板 キ
廉價大販賣

建築及土木用具並小金物類一式取揃申候間御用命被仰付度候

仁川港本町通り
秋田商會鐵物部
電話一一六番

南山町一丁目（植村病院前）

貸席 待合 末乃花

客室は清潔にして可申なるは本店の特色に御座候

廣告

牛肉 かしわ すき燒

永樂町二丁目赤門横手
福壽
初玉事 福田千雄

廣告

往診 午前
宅診 午後
但し急患者は隨時往診
入院隨意

京城貞洞大漢門前
蘇生病院

日韓病院

一般患者之依頼に應す

京城新王城大漢門前
院長 三等軍醫 橋本三男
醫員 吉田定見
同 韓國軍醫 蔡永錫
藥劑師 濱口源太郎
會計 井口平治
隔日出張 龍山青木病院長 青木清六
入院隨意

入院隨意

十全病院

京城旭町三丁目
電話七三七番

今般其筋の認可を得代書業開始す

明治法律學校出身
増本好三郎事務所
京城本町壹丁目一番地

本店 仁川理事廳通（電話三二番）

原金旅館

支店 京城南山町（電話一〇七番）